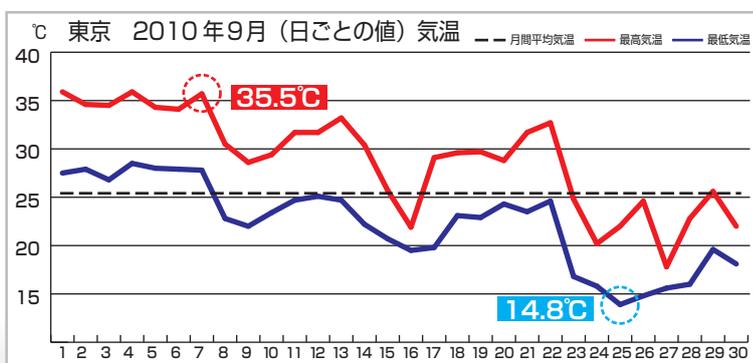
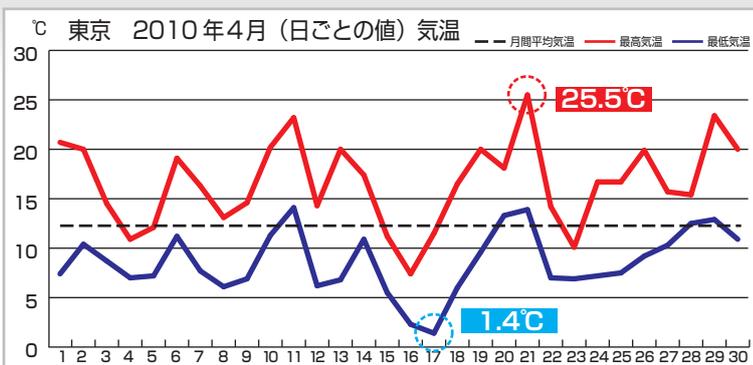


季節の変わり目にご注意ください！

気温の変動が激しく、モルタル硬化時間がバラつきます



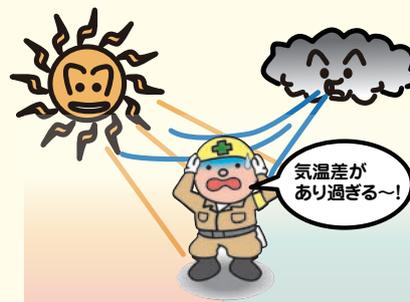
最高気温と最低気温をくらべて

暑すぎると・・・

- ① モルタル急乾燥⇒ひび割れ
- ② 保水が足りない⇒ドライアウト
- ③ 可使時間短縮⇒施工しづらい

寒すぎると・・・

- ① 硬化遅延⇒工程遅れ
- ② 浮き水発生⇒白華



◎【既調合モルタルの保水性】

各種既調合モルタルは、製造時期に応じて保水剤の添加量が微調整されています。

冬場の保水性が低めの材料を高温時に使用すると、モルタルのしまりが早くなり押えがきかない、急乾燥によりひび割れが発生する、などの現象が見られます。

夏場の保水性が高い材料を低温時に使用すると、保水が高過ぎ浮き水が発生し白華現象が起こる、いつまでも硬化しないなどの施工不具合が見られます。

春秋の気温差が激しい時期は、保水性の確認が安心施工の重要チェックポイントになります。

◎ 温度差の影響で発生する施工トラブル（当社事例）

例1 8月製造のNSニューハイレベラーを、9月下旬に施工。施工当日の気温が15℃まで下がった。施工翌日になっても硬化が進んでおらず、足跡が付いた。
⇒**施工翌々日に硬化確認。**

例2 2月製造のNSダブルワンで、4月末にタイル張り施工。施工当日の気温が20℃を超え夏日を記録した。塗付後、モルタルのしまりが早くタイル張付が困難であった。裏足の充足が甘く引張試験で強度不足となった。
⇒**保水剤を少量添加し、ダブルワン塗付面積を狭くして対応。**

●季節の変わり目に関するQ&A

Q：気温が高い場合、保水剤を追加で添加しても良いか。

A：少量の添加では、性能上支障はありませんが、**混入過多は強度低下につながりますのでご注意ください。**

また、**NS ハイフレックス HF-1000** を混入することで、保水効果も高まります。モルタルの強度向上も図れますので、お奨めです。ただし混入過多はモルタルの粘性を高め施工性を悪くするためご注意ください。

また、セルフレベリング材は流動性や収縮に影響を及ぼしますので添加は避けてください。**直射日光を遮断したり、気温が下がる夕方に施工**するなどをお奨めします。

Q：低気温(保水が高い場合)の場合、硬化を促進させるにはどのような措置を取ればよいか。

A：**施工翌日からの通気養生**を十分に行うことが重要です。

特に室内など、湿気がこもりやすい場所では、乾きが遅れる傾向にあります。

また寒冷地などで、採暖機具が残っている(用意できる)場合は、是非活用してください。

Q：施工翌日に急激に気温が低下し、モルタルは硬化しているが表面に露水が付いている。問題ないか。

A：露水は、白華を発生させる要因となります。**乾いた布でふき取り、窓を開けるなど換気をよくしてください。**

地下室など窓がない場合は、送風機で空気の循環を行ってください。ただし施工面に直接風が当たらないよう注意しましょう。

Q：(春先など)気温が上昇し、モルタルの表面が皮張るためタイルが張れない。

A：下地に塗り付ける**張付モルタルの施工面積を狭めて**みてください。オープンタイムが短い環境では1回に施工する面積を小さくし、皮張りする前にタイルを張付ける必要があります。また、保水剤の添加過多により皮張りしやすくなる傾向がありますので、避けた方が良いでしょう。

Q：施工前に使用する製品の製造日を確認したい。確認方法を教えてほしい。

A：弊社の製品は、ロット番号で製造日がわかります。

各製造工場により、ロット番号の桁数が異なりますが、**上6桁が製造日**を表します。

○○○○○○×××

製造日(西暦)

※残りの数字またはアルファベットは製造管理番号

製品お問い合わせ専用ダイヤル 受付時間:月~金(祝日を除く) AM9時~PM5時



0120-974237